

若光(わかひかり)

登録番号：第3006号

登録年月日：平成4年1月16日

登録者：千葉県(千葉県市場町1-1)

育成者：石橋寛己 山本洋子

伊東靖之 佐久網 彰

渡辺茂雄 曾良久男

清島浩之 関本美知

来歴：「新水」と「豊水」の交雑実生

特性

■栽培特性

樹姿は直立型と開張型との中間であり、樹の大きさも中位である。樹勢および枝の発生密度は中位で、枝の太さは「豊水」よりも細く、「幸水」程度である。

新梢停止期は「幸水」と同時期でやや遅い。

成葉は卵形で、葉柄は短く細い。果実肥大期の葉の色は薄く、大きさはやや小さい。

えき花芽率は「幸水」と同程度かやや高く、「豊水」より低い。短果枝の着生は「幸水」より容易であるが、中程度である。短果枝の維持では、「幸水」と同程度かやや劣る。しかし、着果後は盲芽や枯死する芽になるものもあるが、葉芽に変わるものもありその率は「幸水」より高い。

開花期は早い方であり育成地(千葉県千葉市)での開花盛期は4月12日(5年間の平均)で、「幸水」より3日程度早い。花粉の量は多い。主要品種との交配親和性が認められるが、親である「豊水」、「新水」との親和性は他の品種よりも劣るので避けた方がよい。

■果実特性

果形は扁円で梗あ、ていあの広さ、深さとも中程度である。果形の乱れは少なく、玉揃いは良好である。果皮色は黄褐色で着色が良く外観が美しい。果軸の長さは中位で太い。果心は長心臓形で小さい。1果平均重は350g以上になり、早生種としては大果である。生育後期に果実肥大が著しく、収穫期に入っても肥大はすすむ。肉質は緻密で軟らかく、果汁が多い。果肉硬度は4.3~4.6ポンドと「幸水」、「筑水」なみである。果汁はpHが5.1~5.2で酸味は少なく、屈折糖度計示度は11.0~12.0で「幸水」よりやや劣る。日持ち性は25℃のもとで7日である。みつ症の発生はほとんどない。

収穫期は「新水」よりやや早く、育成地で8月上中旬で早い年は7月下旬より収穫できる。収穫終りが「幸水」の収穫始めとわずかにかさなる。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

黒斑病は赤ナシの慣行防除で十分防除できる。ナシえそ斑点病に対しては非発現性である。黒星病に対しては「豊水」と同程度で、赤ナシの防除暦を適応する。

栽培上の留意点としては、早生の大果品種という特徴を持つので、果実を大きくするため早期摘果に努め、結果過多を避けるようにする。

「若光」は成熟期に入ると比較的早くから緑色が抜け、酸も少ないので早採りがちである。しかし、糖度が高い品種ではなく早採りした果実は食味が不十分になりやすいので、完熟果を収穫する事が大切である。

軸折れは果実が大きいため上向きの果実には発生しやすいが、摘果時に「豊水」と同様上向きを残さないように留意する。

■地域適応性

早生品種であり、その特性が発揮しやすい地帯に適し、また果実糖度を高めに維持できる地域が望ましい。しかし、新品種として世に出て浅いため、まだ検討を要する点がある。

(山本洋子)